

演題番号：3

演題名：県内と畜場で分離された豚由来 *Salmonella Choleraesuis* の発生状況および薬剤感受性

発表者名：○大山み乃り、新垣貴野、西田佳子

発表者所属：北部食肉衛生検査所

1. はじめに

公衆衛生上重要な疾病であるサルモネラ症の中で *Salmonella Choleraesuis* (以下SC) による豚サルモネラ症は、全国各地で発生が報告されている。近年、県内のと畜場においてもSCを原因とする豚サルモネラ症が多発している。そこで今回、疾病拡大防止の一助とするため、県内で分離されたSCについて薬剤感受性試験を行い、発生状況を調査した。

2. 材料及び方法

2013年4月から2013年10月にかけて、県内2カ所のと畜場でサルモネラ症と診断された豚から分離したSC 90株(90頭、13農場)を試験に供した。発生状況は発生頭数、場所、時期、発生率を調べた。薬剤感受性試験はアンピシリン(ABPC)、ストレプトマイシン(SM)、カナマイシン(KM)、ゲンタマイシン(GM)、セフトキシム(CTX)、テトラサイクリン(TC)、セファゾリン(CEZ)、クロラムフェニコール(CP)、ナリジクス酸(NA)、ホスホマイシン(FOM)、スルファメトキサゾール/トリメトプリム(SXT)およびシプロフロキサシン(CPFX)の12種類のセンシディスクを用いてKB法により実施した。

3. 結果

県内の豚サルモネラ症の発生時期は夏期に多発しており、発生率も他県と比べて高い値を示していた。また、発生は北部地区に集中する傾向にあり、北部地区での発生頭数は90頭中86頭(96%)、発生農家は13農家中9農家(69%)であった。薬剤感受性試験の結果、供試菌株の耐性パターンは4パターンに分かれ、すべて5剤(ABPC、SM、GM、TC、SXTあるいはABPC、SM、GM、TC、NA)または6剤(ABPC、SM、GM、TC、SXT、CPあるいはABPC、SM、GM、TC、SXT、NA)の多剤耐性を示した。北部地区では4パターンが認められ、中部地区では1パターン(ABPC、SM、GM、TC、SXT)のみ認められた。南部地区からは発生が認められなかった。

4. 考察

従来の研究においてサルモネラは出荷者あるいは農場別に薬剤耐性性状が異なる傾向があることが指摘されている。今回の調査でも地域、あるいは農場別の耐性パターンが確認され、それぞれに定着している株が異なると考えられた。一方で、北部地区、中部地区それぞれにおいて複数農場で同一の耐性パターンの株が認められるケースもあったことから、同一性状の株が拡散している可能性も示唆された。今後は地域的な関連性に関し追加調査を行い、感染経路を特定してSCの拡大防止につなげていきたいと考えている。近隣の台湾ではSCの人への感染が問題となっており、公衆衛生上の観点からもと畜場における感染動向の監視を強化していく必要があると思われる。